

青柏祭における都市空間の使われ方と住民の許容意識 その1 写真調査による使われ方の実態把握

正会員 ○有原千尋* 正会員 北島陽貴*
同 谷内遥香** 同 北野まつ葉****
同 藪谷祐介***

祭礼 曳山祭 入り込み
私有地 軒下 七尾市

1 はじめに

1-1 研究の背景と目的

石川県七尾市の祭り・青柏祭では、でか山と呼ばれる巨大な曳山が曳行する。建物や電柱などにぶつからないようにしながら、方向転換や速い速度での曳行が大きな見せ場である。その際に、観客・曳き手・曳山関係者（以下、参加者）が私有地である軒下やセットバック部分に入り込むことにより祭を楽しんでいる様子が見られる。このような参加者による私有地への入り込みは住民が許容することによって成立していると考えられる。本研究では、青柏祭・曳山曳行における参加者による都市空間の使われ方の実態、さらには参加者の私有地への入り込みとそれを許容する住民の意識（許容意識）を明らかにすることを目的とする。本研究は2編で構成される。本編では写真調査から曳山曳行時の参加者による都市空間の使われ方の実態を把握する。

1-2 研究方法

本編では、①文献・資料から青柏祭・でか山と七尾の都市空間の概要と特性の把握を、②2006～2019年の祝祭時の写真からでか山曳行に伴う都市空間の使われ方の実態把握を行った。新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴って、2020年、2021年と青柏祭での曳山曳行が中止された。観察調査ができなかったため、写真調査から把握する方法を採用した。それにより、複数年の使われ方を把握することができた。

2 七尾市と青柏祭・でか山の概要

2-1 七尾市の概要

石川県七尾市は、石川県北部の能登半島の七尾湾に面した人口約5万人の自治体である。中世での小丸山城の築城の際に、南北軸である御祓川を境に東西軸である内浦街道を両分した¹⁾。東側に職人、西側に商人と生活空間が分かれ、現在の七尾市街地のベースとなる東西に直線に延びる細長い都市空間がつけられた¹⁾（図1）。このように七尾は「城下町」としての都市の性質をもちながら、七尾港の「港町」や職人と商人らの「町民の生活空間」としての都市空間がつけられた¹⁾。近代には御祓川に沿った石川県道132号七尾港線（川渕通り）という大通りができて現在の七尾市街地に至る¹⁾。

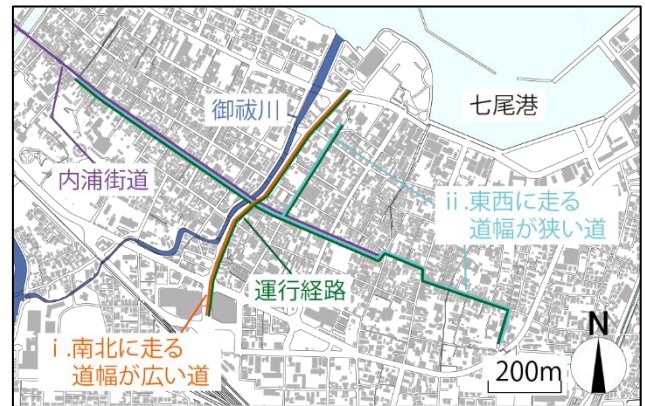


図1 七尾市中心市街地図とでか山の運行経路^{注1)}

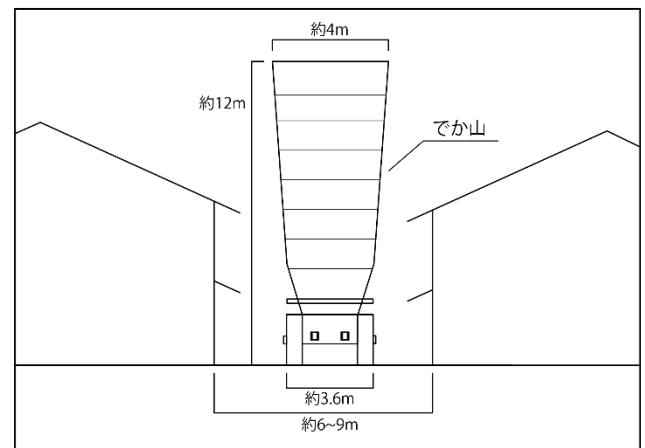


図2 でか山と狭い道幅の都市空間

2-2 青柏祭の概要

981年から始まったとされる青柏祭は毎年5月3～5日に行われ、中心市街地をでか山と愛称される曳山三台が曳行され大地主神社に奉納される²⁾。でか山は、高さ約12m、幅約3.6m、上部の開き約13mの扇形で巨大な歌舞伎人形舞台を持ち、車輪直径約2m、重さ約20tある日本最大級の曳山である²⁾（図2）。「青柏祭の曳山行事」として1983年に国の重要無形民俗文化財に指定、2016年にユネスコの無形文化遺産に登録されている²⁾。期間中でか山が通る時間帯は自動車の交通が規制され、でか山と歩行者だけの空間となる。

3 写真調査による都市空間の使われ方の抽出

写真の収集方法はSNSによる募集や七尾市、魚町でか山保存会からの提供である。収集した写真の合計は1935枚

である。それらをでか山の運行経路（図 1）によって、i. 南北に走る道幅が広い道（石川県道 132 号七尾港線）、ii. 東西に走る道幅が狭い道の 2 つに分類し、それぞれの空間の特徴的な使われ方をでか山曳行中の写真 313 枚から確認した（表 1）。でか山曳行の過程で参加者が私有地に入り込んでいることが写真調査から把握できた。

i. 南北に走る道幅が広い道

写真 119 枚から利用実態を把握した。曳き手は曳山の前で曳き、観客とでか山関係者は左右前後に見られる。地上からでか山を見る場合では、歩行者天国になった道路、コンビニや店舗の駐車場に入り込んででか山を見ていることがわかった（表 1 [ア]）。でか山が三大集合する七尾駅前では、地上に加えて複合商業施設の空中廊下や御祓川の対岸にある店舗の外部階段などの地上よりも高い位置からでか山をみる観客が見られる（表 1 [イ]）。

ii. 東西に走る道幅が狭い道

写真 194 枚から利用実態を把握した。曳き手は曳山の前で曳き、観客とでか山関係者は前後に見られる。でか山を地上から見る場合は、一時的に歩行者天国になった道路、私有地である住宅のセットバック部分や軒下（表 1 [オ]）、駐車場や空き地に入り込んで見る観客がいる（表 1 [ウ]）。道路沿いの住宅の 2 階の窓からでか山を見ている観客も確認できた（表 1 [エ]）。

4 考察

でか山曳行時に、参加者が公的な空間である道路空間から私有地に入り込んででか山を曳いたり、見たりしていることが確認できた。これは、限られた都市空間において巨大なでか山を曳行したり、距離をとって見ようとしたりすることが要因であると考えられる。また、観客は空中廊下など高い視点場から祭りを体験している。道幅が狭い道路空間では、参加者は安全性の観点から曳山曳行時のでか山の前後にいることを促されることが多いが、それでも軒下に入り込んででか山を体験していることが確認できた。また参加者は、狭い道路空間で巨大なでか山をひいて見るために、空き地や建物のセットバック部分などに入り込んでいると考えられる。この狭い都市空間のなかで参加者は最大限でか山を楽しむために私有地へ入り込んでいると考えられる。

参考文献

- 市川秀和：能登七尾の町と町家―七尾市の歴史的市街地に関する報告調査（1）―、日本建築学会北陸支部研究報告集、第 45 号、pp. 379-382、2002
- 企画・編集 北國新聞社出版局：七尾青柏祭でか山 徹底ガイド ユネスコ無形文化遺産登録記念、北國新聞社、2017

注

注 1) 国土地理院地図を基に筆者作成

表 1 道幅による写真の分類

i.南北に走る道幅が広い道	119(枚)
[ア]駐車場・空き地	98(枚)
[イ]2階以上	21(枚)
ii.東西に走る道幅が狭い道	194(枚)
[ウ]駐車場・空き地	65(枚)
[エ]2階以上	4(枚)
[オ]軒下・セットバック部分	125(枚)

*1 七尾市からの提供
*2 SNS 募集による個人からの提供
*3 魚町でか山保存会からの提供

*富山大学大学院芸術文化学術研究科大学院生

**株式会社トミソー

***富山大学学術研究部芸術文化学系 講師・博士（デザイン学）

****グリーンノートレーベル株式会社

* Students, Graduate School of Art and Design, Univ. of Toyama

**Tomiso Corporation

***Lecturer., Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama,
Doctor of Design

****Green Note Label Inc